

文化財保護センターだより

第24号

平成11年3月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1

TEL058-237-8550(代)
FAX058-237-8551

●もくじ

表紙	光り輝く黄金の鞍の持ち主は?.....1	まとめ	平成10年度岐阜県内発掘調査.....6,7
行事	発掘速報展「いにしへの美濃と飛騨」...2,3	紹介・誌上	収蔵遺物紹介・センター日誌他.....8
調査	各発掘現場より.....4,5		

光り輝く黄金の鞍くらの持ち主は？

— 発掘速報展「いにしへの美濃と飛騨」より —

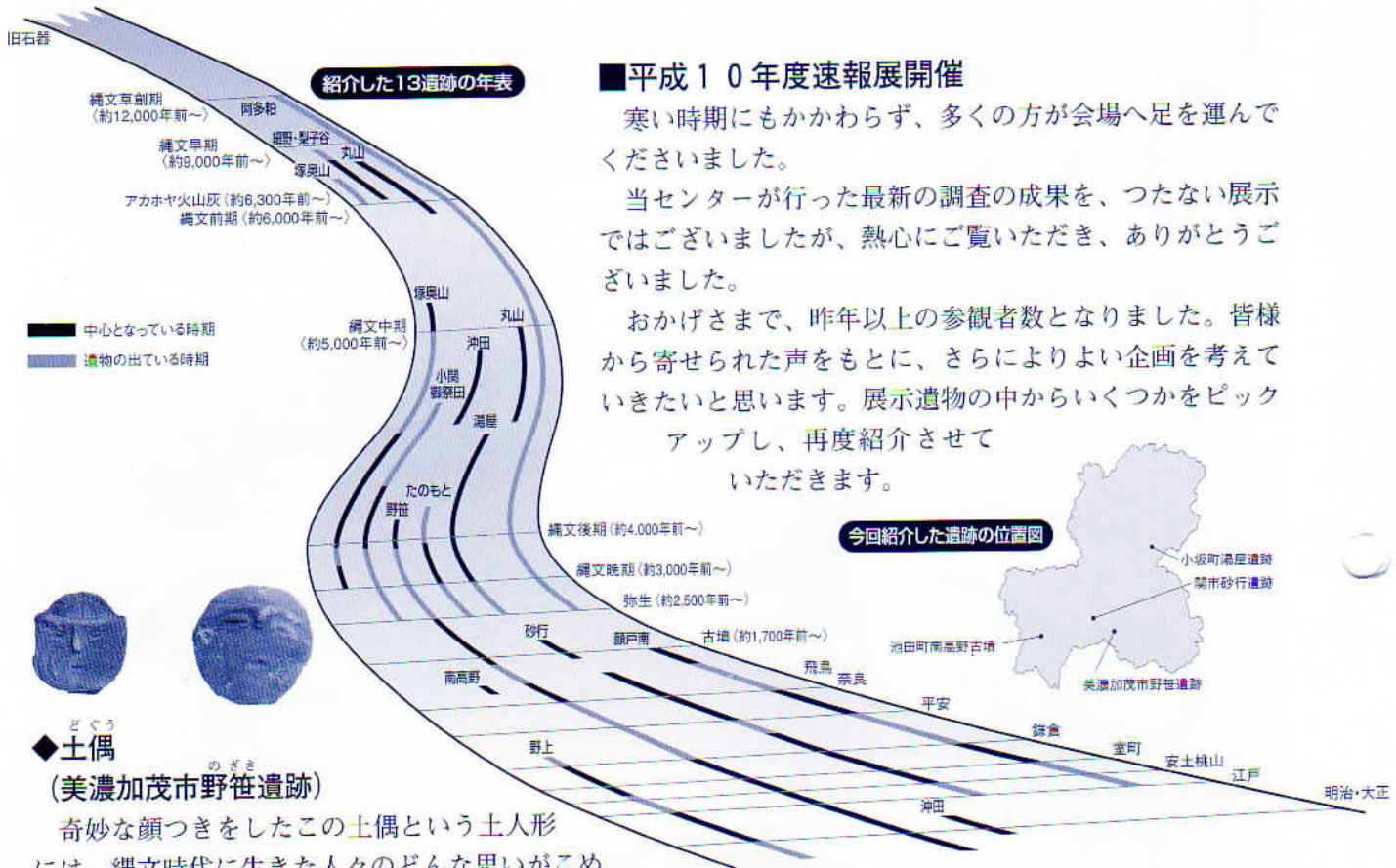


1月13日から1月31日の17日間、岐阜県博物館（関市小屋名）において発掘速報展「いにしへの美濃と飛騨」を開催しました。今年度の発掘速報展では、平成8年度及び9年度に当センターが発掘調査を行った遺跡から出土した遺物を時代順に展示しました。展示遺物は約200点、1,000人を軽く超える多くの方々にご覧いただきました。

写真は、新発見となった揖斐郡池田町南高野古墳から出土した馬具（鞍金具）です。金箔がはられた大変豪華なもので、埋葬された権力者の強大な勢力を物語っているようです。古代美濃の社会を考える上で、貴重な発見となりました。

発掘速報展 「いにしへの美濃と飛驒」 報告レポート

行事



紹介した13遺跡の年表

平成10年度速報展開催

寒い時期にもかかわらず、多くの方が会場へ足を運んでくださいました。

当センターが行った最新の調査の成果を、つたない展示ではごさいましたが、熱心にご覧いただき、ありがとうございました。

おかげさまで、昨年以上の参観者数となりました。皆様から寄せられた声をもとに、さらによりよい企画を考えていきたいと思ひます。展示遺物の中からいくつかをピックアップし、再度紹介させていただきます。

今回紹介した遺跡の位置図



◆土偶 (美濃加茂市野笹遺跡)

奇妙な顔つきをしたこの土偶という土人形には、縄文時代に生きた人々のどんな思いがこめられているのでしょうか。謎にまつまれた縄文の世界にロマンが広がります。

◆鏡 (関市砂行遺跡)

第1主体部 (遺体を納める場所) は、盗掘されていることがわかり、がっかりしていた調査員を一転興奮させたのは、この鏡でした。最初に見つかった破片を手がかりにして慎重に掘り進め、第2主体部を発見しました。ゆっくり掘り進めると、石で割れてはいましたが、当時の輝きを失っていない鏡が見つかりました。



平日こそやや少なめの参観者数でしたが、休日は100名を超える方々に来ていただきました。

見事に復元された土器にまずびっくり。蔵骨器の穴から骨が見えたことを聞いて二度目のびっくり。1つの古墳からたくさんの土器が出てきたことを知り三度目のびっくり。目を輝かせ、見入っていた小学生の子どもたちは、将来の考古学者の卵でしょうか？

センター2年間の成果が県博物館へ集まる! 行事

◆大量の須恵器群 (池田町南高野古墳)

高さ49cmの大型器台やかわいらしい鳥のつまみのついた蓋など40数点もの須恵器を展示しました。

しかし、**実は**これでもすべてではなかったのです。これほどたくさん**副葬品**を納めることのできる人は、どのくらいの力を持った人だったのでしょうか。おそらく、私たちが想像する以上の有力者であったに違いありません。



◆**瘤付土器** (小坂町湯屋遺跡)

東北地方で多く見られる**瘤付土器**です。断片的な資料は今までも報告されているようですが、これほどまでに**復元**されたのは岐阜県では初



めてのようです。

大小の瘤がつき、煙突のような奇妙な形をしているこの土器を当時の人々はどのように使ったのでしょうか?少なくとも日常的に使っていたとは考えにくいようです。何かおまつりのような特別な時に登場した大切な土器であったにちがいありません。



◆いにしへの土器にふれてみよう!

展示コーナーの一角に直接土器に触れることができる場所を設けました。縄文土器・土師器・須恵器・山茶碗という4種類の土器に触れていただけるようにしました。さらに、土器の種類を当てるコーナーもつくりました。土器の裏にはあってあるシールで種類を確かめながら実に楽しそうにクイズに取り組む参観者の方々の表情が印象的でした。

■記念講演会に127名の参加者が!!

1月17日(日)、「クニから郡へー古代美濃・飛騨の地域社会ー」と題して、岐阜大学助教授早川万年先生に記念講演を行っていただきました。

講演は、奈良県飛鳥池遺跡から出土した木簡に記されていた文字資料をもとに古代美濃・飛騨の地域社会の様子をひもとく内容でした。

考古学と文献史学を結ぶ接点ともなりうる



考古文字資料についてのお話は大変興味深いものでした。

本年度終了間近!! 発掘調査状況



今年度の発掘調査もあと残りわずかとなりました。今回のきずなでは、右地図上に記してあります4遺跡について発掘調査の概要や成果などをお知らせいたします。

■戸入村ノ内遺跡 (揖斐郡藤橋村)

戸入村ノ内遺跡は、旧徳山村西谷の戸入集落西部に位置する遺跡です。以前に県教育委員会が調査を行った村平遺跡の北側を調査しました。

この発掘調査により、戸入地区の縄文時代中期から後期にかけての集落の様子が、明らかになってきました。ここで発見された住居のほとんどは、直径が5m程度の円形の竪穴住居でした。

住居跡付近からは、たくさんの土器片が発見され、それらの中には、「きずな」22号の収蔵遺物紹介欄に掲載された村平遺跡の美しい土器に似たものも見つかりました。今後、整理作業の中で多くの破片を接合していくと、立派な土器になるのではないかと、今から楽しみです。下の写真は埋められた状態で発見された土器の様子です。



意図的に埋められた土器を発見

住居跡の中央部付近には、直径約50cmの石圍い炉があり、近くでは木の実をすりつぶすため

の石皿なども見つかりました。当時の人々は、野山で山菜や木の実などを採集し、ここで調理したのでしょう。また、魚を捕らえるためのおもり(石錘)が多く発見されており、近くの川で漁をして多くの食料を得ていたと思われます。

村ノ内遺跡の住居跡は8軒確認されましたが村平遺跡のものとも合わせると16軒になります。それを見ると、およそ同じ時期のもの4~5軒が、円をなすように配置されていることがわかりました。おそらく、小さなムラのようなものができており、助け合って狩猟や採集をして生活していたのでしょう。

■下有知遺跡群 (関市下有知)

きずな第22号の本欄で紹介した下有知遺跡群

の3地区に、遺跡名がつきました。南青柳遺跡・深橋前遺跡・榎ノ木洞遺跡の3

遺跡です。調査を進めるにしたがって、遺跡の様子がわかってきました。

【南青柳遺跡】

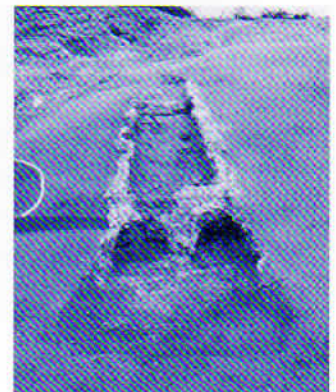
古墳1基と竪穴住居跡が70数軒ほど見つかりました。古墳は、出土した土器片(須恵器)から、5世紀後半~末ぐらいに造られたようです。南側に方形の「造り出し」(祭壇)が設けられた円墳で、盗掘されていましたが、鉄刀と鉄剣が2本出土しました。古墳に埋葬された人がどんな人であったかと思いをめぐらしています。

【深橋前遺跡】

3遺跡の中では一番広い面積の調査をしています。この遺跡では、古墳、古窯(茶碗などを焼く窯)、火葬墓、竪穴住居跡などがあり古墳時代~奈良、平安時代までのたくさんの先人の生活の跡をたどることができます。中でも、古窯は平安時代のもので、近隣の同時期の窯に比べ少し小さめですが、灰原や窯の中からたくさんの灰釉陶器が出てきました。また、奈良時代の火葬墓には、埋葬された壺の中に人骨が入っていました。その他、石組みや大きな甕を合わせた墓のようなものもあり、鉸具(ベルトのパックルにあたるもの)という珍しい遺物も出土しています。

【榎ノ木洞遺跡】

鎌倉~室町時代にかけての水田跡と古墳時代の竪穴住居跡が20軒あります。この竪穴住居跡からは、須恵器などがほぼ完



深橋前古窯



全な形で見つかりました。また、糸を紡いだ土製の紡錘車など、多くの遺物が出土しています。発掘調査は、新しい発見や珍しい遺物との出会いがあって、毎日楽しく行われています。

■針田遺跡（美濃加茂市下米田町）

美濃加茂市東部の外れ、飛騨川をはさんで川辺町と隣接する下米田町に本遺跡は位置します。飛騨川によって形成された河岸段丘上にあり、周辺は水田や畑が広がります。今回の調査は、東海環状自動車道の建設に伴うもので約4,000㎡を調査してきました。周辺一帯は美濃加茂市屈指の遺跡集中地帯にあたりますが、本遺跡も数多くの遺構が存在することが分かりました。

これまでの結果、奈良時代の竪穴住居跡が50余軒見つかりました。これらの住居跡の数多く



竪穴住居跡発掘の様子

が重なりあって検出されており、長い年月の中で人々が住居を造り替えていった様子がうかがえます。また、ピット（穴）は1,000基以上見つかり、柱跡と思われるものもありました。遺物は、細かい破片が多いのですが、中にはほぼ完全な形の壺や瓶、皿や碗などが見つっています。

今回の調査により、当時、このあたりに長い年月にわたって多くの人々が生活していた様子の一端を垣間見ることができ、さらには周辺地域とつながる一大集落跡の痕跡をたどることができました。



ほぼ完全な形で見つかった土器

■冬頭城跡（高山市冬頭町）

冬頭城跡は高山市の北部、国道41号線沿いにあり、中山丘陵の北方先端部に位置しています。高山市を一望することができ、高山盆地の主な城跡を見渡せることや、この山の麓を通る道が国府町につながっていることなど、城を建てるのに絶好の位置にあります。

城跡は、尾根の頂上（標高約612m）に主郭となりうる平坦地が作られ、焼土や灰などが確認されました。また、尾根づたいに数段の曲輪や切岸があり、中腹には堀立柱建物跡の柱穴がある曲輪も見つかりました。

冬頭城跡は石組みを持たず、曲輪などの防御施設を中心とした城であることから中世の山城と考えられます。

また、今回の調査では新たに2基の古墳と横穴が発見されました。冬頭山崎1号古墳は6世紀末～7世紀初と思われる横穴式石室の円墳で蓋付きの高坏と壺が出土しました。冬頭山崎2号古墳は、竪穴式石室で甃き石を持ち、2段に造られた5世紀末の円墳です。石室は地山を直方体に掘り、片方だけに板状の石を積んで側壁を作る特殊な形態をしています。遺物は須恵器・弓・鉄鎌などが出土しました。冬頭山崎1号横穴は、奥行きが約3.3m、幅1.1m程あり、固い岩盤を円形に掘って作られ、管玉が1点出土しました。高山市の横穴は、三福寺町周辺の限られた地域にしか見つかりませんが、今回の調査の結果広い地域に分布する可能性も考えられます。

注1) 主郭(城の中心としての役割を持つ人工的に平らにされた場所)

注2) 曲輪(城を守るために人工的に平らにされた場所)

注3) 切岸(斜面を人工的に急角度に削り、敵が登りにくくすること)



冬頭城跡・全景

平成10年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査

まとめ

平成11年1月31日現在

遺跡名(所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物など
鵜沼古市場遺跡B地区 (各務原市鵜沼南町)	各務原市教育委員会	古墳～奈良時代	竪穴住居跡・土壇 須恵器・土師器
熊田山北古墳群 (各務原市蘇原東島町)	各務原市教育委員会	古墳時代	古墳(円墳)・土壇 須恵器・土師器
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会	古墳時代	葺石・埴輪列・墓壇・竪穴式石槨 滑石製玉類・ガラス小玉・土師器・笄形土器・土製品
桧遺跡 (大垣市桧町)	大垣市教育委員会	平安～戦国時代	区画溝・掘立柱建物 灰釉陶器・山茶碗・かわらけ・古瀬戸・大窯製品・鉄鎌
荒尾南遺跡 (大垣市桧町)	大垣市教育委員会	弥生～古墳時代	方形周溝墓時代 弥生土器・土師器・人面土器
曾根城跡・城下町跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会	奈良～戦国時代	掘立柱柱穴・土壇・溝 須恵器・土師器・灰釉陶器・墨書土器
国分寺跡 (大垣市青野町)	大垣市教育委員会	奈良時代～近世	自然流路・土壇・溝 須恵器・土師器・瓦・緑釉陶器・墨書土器・櫛・曲物
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会	奈良～平安時代	鉦鉸西脇殿・政所院 須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶碗・青磁・布目瓦
野上遺跡 (関ヶ原町野上)	(財)岐阜県文化財保護センター	古代～近世	掘立柱建物跡・土坑・流路・溝・土塁 土師器・山茶碗・白磁・青磁
願成寺西墳之越36号墳 (池田町願成寺)	池田町教育委員会	古墳時代	竪穴式石槨・木棺墓・葺石・周濠 須恵器・土師器・鉄剣・鉄鏃・ガラス玉・管玉
岩井谷遺跡 (春日村美東)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・土器集中区・土坑・集石遺構・立石 縄文土器・石器(石鏃・石錘・磨製石斧・石匙・たたき石)
塚奥山遺跡 (藤橋村塚)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・炉跡・配石遺構・埋設土器 縄文土器・土製品・石器
戸入村ノ内遺跡 (藤橋村戸入)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代・中世	竪穴住居跡・炉跡 縄文土器・石器・陶器
小谷戸遺跡 (藤橋村戸入)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	集石遺構 縄文土器・石器
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	飛鳥～平安時代	竪穴住居跡・正倉院区画溝・掘立柱建物群・土壇 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗
弥勒寺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	白鳳時代	講堂基壇・講堂礎石・柱穴・集石・焼土 瓦・須恵器・土師器・灰釉陶器・螺髪・山茶碗・木製品
南青柳遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生～古墳時代	竪穴住居跡 弥生土器・土師器・石器
南青柳古墳 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	古墳(造り出し付き円墳) 鉄刀・鉄剣・須恵器
深橋前遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生～平安時代	埋納甕・竪穴住居跡 弥生土器・須恵器・土師器・灰釉陶器・銅鏃・石器
深橋前古墳 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	古墳(横穴式石室)
深橋前1～3号火葬墓 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	奈良時代	火葬墓 須恵器・鉦具(かこ)
深橋前古窯跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	平安時代	灰釉窯・灰原 灰釉陶器
橙ノ木洞遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代～中世	竪穴住居跡・溝・土壇・水田跡 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・中近世陶器・石器
渡来川北遺跡 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	縄文時代	土壇 石器(有舌尖頭器・スクレイパー・石鏃)
寺屋敷遺跡 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	中世	土壇・柱穴跡・溝 縄文土器・土師皿・山茶碗・中近世陶器
中屋敷遺跡 (美濃市極楽寺)	美濃市教育委員会	中世	溝・土壇・室外炉穴 須恵器・土師器・山茶碗
段遺跡 (美濃市段)	美濃市教育委員会	古墳時代・中世	竪穴住居跡・土坑 土師器・山茶碗

遺跡名 (所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物など
大坪遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世	土坑・ピット群・溝 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・古瀬戸・瓦質土器
佐口遺跡 (美濃加茂市山之上町)	(財)岐阜県文化財保護センター	飛鳥～奈良時代・中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸・溝 須恵器・土師器・山茶碗・中近世陶磁器・刀子
針田遺跡 (美濃加茂市下米田町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代～近世	竪穴住居跡・集石遺構・土坑・溝・ピット 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・近世陶磁器
東坪之内遺跡 (美濃加茂市下米田町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	流路・溝・土坑 土師器・石器
田中浦遺跡 (美濃加茂市下米田町)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世	溝・土坑・柱穴 山茶碗
西寺山古墳 (可児市中恵土)	可児市教育委員会	古墳時代	葺石 土師器(壺・高坏)
野中古墳 (可児市中恵土)	可児市教育委員会	古墳時代	溝 土師器
正家庵寺跡・寺平遺跡 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会	奈良～平安時代	回廊・築地で囲まれた区画 須恵器・奈良三彩・鍛冶関連遺物
妻木城跡 (土岐市妻木町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	室町～江戸時代	礎石・柱穴・土坑 土師器・陶器・中国磁器
妻木城土屋敷跡 (土岐市妻木町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	室町～江戸時代	礎石・井戸 土師器・陶器・瓦
土岐口西山古窯跡 (土岐市土岐津町)	(財)岐阜県文化財保護センター	平安時代	灰原 灰釉陶器
ホヤノ木古墳 (坂下町西高辺)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文・古墳時代	古墳(横穴式石室をもつ円墳)・土坑 縄文土器・須恵器・土師器・石器(打製石斧)
中遺跡 (上矢作町中畛)	上矢作町教育委員会	弥生・鎌倉～江戸時代	江戸時代建物跡 弥生土器・施釉陶器・山茶碗
三仏寺庵寺跡 (高山市三福寺町)	高山市教育委員会	白鳳～奈良時代	礎石建物跡・基壇の一部・礎石配列 軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦
冬頭城跡 (高山市冬頭町)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世	中世城館跡
冬頭山崎1号古墳 (高山市冬頭町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	古墳(横穴式石室・円墳) 須恵器
冬頭山崎2号古墳 (高山市冬頭町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	古墳(竪穴式石室・二段築成の円墳) 須恵器・弓・鉄鏃
冬頭山崎1号横穴 (高山市冬頭町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	横穴(墓) 管玉
上ヶ平遺跡 (下呂町森)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代・古代	竪穴住居跡・焼礫集石炉・土坑 縄文土器・須恵器・土師器・石器・下呂石剥片
岩垣内遺跡 (丹生川村板殿)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・捨て場・土坑群・焼土跡 縄文土器・土偶・石器・獣骨
青屋和田城跡 (朝日村立岩)	朝日村教育委員会	中世	削平跡(掘込跡)
上町遺跡 (古川町上町)	古川町教育委員会	古代・中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・土坑 須恵器・土師器・金属片・炭化物
黒内細野遺跡 (古川町黒内)	古川町教育委員会	縄文時代	竪穴住居跡・土坑 縄文土器・土製品・石器・石製品・炭化物・骨片
太江遺跡(仮称) (古川町太江)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代・古代	竪穴住居跡・焼土跡 縄文土器・須恵器・土師器・灰釉陶器・瓦・石器
かま洞1号・2号窯跡 (国府町瓜栗)	国府町教育委員会	白鳳時代	須恵器・瓦
江馬氏城館跡・下館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会	中世	築地塀・堀跡・竪穴住居跡・柱穴 土師器皿・瀬戸美濃・珠洲・青磁・白磁

※試掘調査を除く

紹介記録

■ 収 蔵 遺 物 紹 介



センター日誌

- 8.26 発掘調査検討会
- 9.2 揖斐郡民生委員、塚奥山遺跡視察
- 4 坂下町教育長林氏、ホヤノ木古墳視察
- 7 奈良大教授泉氏、岩井谷遺跡・揖斐川整理所指導
- 8 教育センター研修（佐口遺跡） 14名
- 9 奈良大教授泉氏、塚奥山・戸入村ノ内遺跡指導
奈良国立文化財研究所黒崎氏、顔戸南遺跡整理指導
- 16 下米田小校長林氏、針田遺跡視察
- 22 台風7号被害、穂積等にて発生
- 26 現地説明会（岩井谷遺跡） 110名
- 28 三重大名誉教授八賀氏、太江・冬頭城・上ヶ平遺跡指導
- 30 揖斐川町教育長久保田氏他2名、揖斐川整理所視察
- 10.2 調査部研修会（奈良大教授泉氏講演）
- 12 産業医井奈波氏、下有知遺跡群・三田洞整理所指導
- 13 國學院大教授小林氏・奈良大教授泉氏、塚奥山遺跡指導
- 24 現地説明会（太江遺跡） 80名
- 26 奈良大教授泉氏、徳山・春日遺物指導
- 11.5 名古屋大教授渡辺氏、岩垣内遺跡指導
- 9 三重大名誉教授八賀氏、冬頭城跡指導
高山市教育長森瀬氏他1名、冬頭城跡視察
- 12 基礎講座（～13）
- 13 全国公社連絡協ブロック会議（17名）、上ヶ平遺跡視察
- 14 現地説明会（岩垣内遺跡） 220名
- 17 三重大名誉教授八賀氏、下有知遺跡群指導
新規整理作業員、発掘現場研修
- 20 産業医井奈波氏、岩垣内遺跡・国府整理所指導
- 12.8 山之上小児童24名（引率2名）、佐口遺跡見学
- 14 発掘調査検討会
- 15 県内埋蔵文化財担当者会議
- 16 飛騨養護学校生徒2名、国府整理所見学
- 19 現地説明会（佐口遺跡） 218名
- 22 三重大名誉教授八賀氏、冬頭城跡指導
- 1.13 発掘速報展開幕（～31 県博物館） 1,290名
- 17 岐阜大助教授早川氏、発掘速報展講演 127名
- 26 森の文化博物館学芸員高橋氏、岩井谷遺跡整理視察
- 27 揖斐川整理所第1次移転作業
- 2.2 三重大名誉教授八賀氏、下有知遺跡群指導

写真の土器は岡前遺跡（吉城郡古川町）の第4号住居跡から出土した「埋甕」と呼ばれる土器です。住居跡の入口の地中から発見され、縄文時代中期後半（約4500年前）のものと考えられます。

土器の底はおそらく意図的に打ち欠かれ、蓋として平らな石が置かれていました。一般に「埋甕」は口の部分を上にして埋められます。しかし、この土器は逆さまに埋められていました。その点では、「埋甕」という施設がどのようにして発生したかを考える上で貴重な資料といえます。

さらに特徴的なこととして、土器の文様があげられます。櫛のような道具を連続して突き刺して模様をつける技法はこの時期の北陸地方の土器を代表する手法です。しかし、この土器は北陸の土器の手法を使いながらも北陸地方の土器とは全く違う雰囲気を持ち、なおかつ信州の土器にも類を見ないものです。

このことは飛騨の縄文人たちが周辺の縄文文化を取り入れながらも独自の個性的な文化を育てていたことを示しています。

編集後記

当センターで発掘し、復元した遺物の数も増えてきました。いにしえの人々の暮らしをうかがい知ることができる貴重な財産です。

その一端を県民の皆様を知っていただくために今年度も、県博物館において発掘速報展を開催しました。

寒い時期にもかかわらず、多くの方々にご覧いただきました。県内はもとより近隣諸県、遠くは福岡県からもおいでいただきました。改めて埋蔵文化財に対する関心が非常に高まっていることを感じました。

県教育委員会、県博物館をはじめ御協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

日一日と暖かさが増えています。今年度の調査を終え、新たな調査に向かいます。